

# 島根の地域医療

第3号

島根県健康福祉部医療対策課 '03. Feb. 06

e-mail: iryou@pref.shimane.jp

▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



## ◇第1回医師交流会『来てごしなはいませ島根へ』を開催

去る1月11日に初の試みとなる医師交流会を大阪市内で行いました。

医師交流会は、島根県外に在住しておられる医師に本県の状況を知っていただき、将来的に本県へのU・Iターンを希望されるきっかけとなればと開催しました。

交流会にご出席いただいた方は、3名と少な目ではありましたが、県内の主にへき地に所在する6病院から状況を説明し、出席者の皆さんからも現況や今後の医療提供体制のあり方など参考になる話を伺うことができ、個人的にも興味深い交流会となりました。

今後とも各地で開催を予定しており、3月には東京での開催準備を進めていますので、お気軽にご参加ください。皆さんにお会いできることを楽しみにしております。(詳細内容については、近日中にホームページに掲載します)

【医療対策課 小松原】

## 地域医療最前線その4

めっきり日が短くなった秋の日、「しびしびはこの時期の鮎でないとおいしくないんです」と割烹旅館のおかみが教えてくれました。

"しびしび"はまるまるとした子持ちの鮎を炭火で時間をかけてあぶったもので、頭からまるごとかぶりつくことができます。雑誌にも紹介されたことがあるそうですが、美味でした。またある日、「昔は、たそがれ時になると近隣の若い衆が、仕事の上がった女工さん目当てに、そこかしこにたむろしていたものです」と隣町に出かけるタクシーの中で運転手さんが教えてくれました。材木の集積地と

して、絹織物の産地としてさぞかしにぎわっていたであろう頃の話です。



日原町には、高津川と津和野川の二本の清流があり、鮎やツガニなどの天然の美味を堪能することができます。また、夏には川で泳ぐこともできます。近くにはぶなの原生林もあり、日本の田舎の原風景のような田畑がひろがり、自然に囲まれた美しい所です。現在は、残念ながら、あでやかな女工さんの姿はなく、高齢化率34.9%という現実があります。病院の様相も昔と随分と変わったのではないかと思います。

外来の患者さんは、主として70歳代後半から80歳代で、90歳前後の方たちが数割にものぼります。患者さんの平均年齢は、石見の市街地の病院で出雲の大学病院より7、8歳年上、当地のような石見西部の中山間地ではさらに5歳ぐらい年上ではないかという印象です。入院患者は、外来よりさらに年齢が上がり、病院併設の老健施設では入所者の半数は90歳以上です。15年前に勤務した頃よりも確実に高齢化していることを昨年の赴任早々感じました。

高齢者の多いこの地で、急性期病棟の平均在院日数17日以内要件などかなうはずはなく、田舎ゆえの医師確保の難しさもあり、昨年10月に2病棟とも療養病棟に転換しました。また、療養病棟のみで二次救急のバックアップは難しく救急告示もとりさげ、隣町の病院との病院間連携と機能分担で急患には対応しています。

療養型では、包括払いの限られた予算の中で、複数の病気を抱える高齢者の医療・介護を行わなければなりません。状態の改善が期待できる方ばかりではなく、いかに合併症を起さないようにするかも重要であり、急性期の管理とは違った新たな努力が必要です。療養中の転倒や誤嚥、骨折をいかに防止するかは切実な問題です。療養型病棟に医師の興味が向けられにくい状況ですが、病態の明らかでない食思不振や発熱、潜在する

悪性腫瘍の顕在化や、慢性心不全の増悪等々高齢者でしばしば遭遇する病状の変化に対しても、新たなknow-howが求められているのではと感じます。そう遠くない将来、一部の都会を除けば同じような高齢社会になるはずで、全国に先駆けて高齢化が進む地域から何か有効な提言はないものかと、ない知恵をしぼっているこの頃です。

いなせな若い衆や女工さんのあでやかな姿は今はありませんが、お年寄りとその家族が笑顔で穏やかにすごせる環境であるためにも、地域の病院の果たす役割の大切さを感じています。

【日原共存病院 山形】

## 県のドクターバンクから

### ●求職・求人情報

(平成14年12月27日現在)

### <求人> 16件

- 邑智郡一病院/泌尿器科、放射線科
- 邑智郡一病院/整形外科、精神科
- 鹿足郡一病院/内科
- 浜田市一病院/内科
- 飯石郡一病院/内科
- 出雲市一診療所/胃腸科、肛門科
- 益田市一病院/内科
- 松江市一病院/内科
- 邑智郡一病院/内科、整形外科  
在宅医療
- 益田市一病院/精神科
- 隠岐郡一その他/老人医療
- 鹿足郡一病院/内科、外科
- 仁多郡一診療所/内科
- 出雲市一診療所/在宅医療
- 松江市一その他/内科
- 那賀郡一診療所/内科

### <求職> 1件

内科(常勤) - 松江市周辺希望

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までご連絡ください。

(担当: 戸谷・吉岡)

[電話番号] 0852-21-8813 (専用)

[ホームページアドレス]

<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>



## ◇風に吹かれて~出雲より~②

今回はへき地医療支援機構について説明いたします。

厚生労働省により、2001年度からの5ヶ年を計画期間として新た

に策定された「第9次へき地保健医療計画」によれば、これまでへき地医療対策は二次医療圏単位で体制を整備し、事業を実施してき

### 未熟児出産 西ノ島⇒境港

#### 大しけの中..小さな命守れ!

##### ▼巡視船で必死の搬送▲

大荒れの天候が続いた二十九日、隠岐・西ノ島町で未熟児が誕生。通常、急患輸送に当たる島根県防災ヘリなどが一切飛べないため、境海上保安部の巡視船おき(八二〇トン、辻重男船長ら三十三人乗り組み)が出動。波高八メートルという大しけの中、西ノ島町から境港まで海上七十キロメートルを未熟児の急患輸送に当たり同日午後、無事、米子市の鳥大医学部附属病院に収容した。

同日朝、西ノ島町の女性(二八)が、同町内の隠岐島前病院で予定より二ヶ月早く未熟児の女児を出産。新生児の容体が思わしくなく、設備の充実した本土の病院に入院するため、島根県から同保安部に急患輸送の要請があった。

たまたま近くを警戒中の巡視船おきが西ノ島町・別府港に入港。新生児と父親たち家族二人、医師、看護師の五人を乗せて午前十時五十分ごろ、同港を出港。午後二時二十分ごろ、境港市大正町の岸壁に着岸し、新生児は救急車で鳥取大学医学部附属病院に運ばれた。搬送時点で、新生児の容体に特に変化はなかったという。

当時、海上の天候は吹雪、西北西の風風速二九メートルで波高八メートル。視界は時にわずか九メートルまで落ちるといふ悪条件。巡視船は横波による横揺れが激しく、見張りを付けて転覆しないよう注意しながら、航行したという。

おき首席航海士の高山順二郎さん(五〇)は「年に一、二度、遭遇するかどうかの大荒れ。通常でも約二時間半かかり、大しけなので四時間は覚悟していたが、三時間半で着岸できた。赤ちゃんを無事、救急車に搬送できてホッとしています」と胸をなで下ろした。



【山陰中央新報03.0  
1.30より抜粋】

ましたが、今後はより広域的な都道府県単位の対策が必要とされています。その具体的内容の1つに、へき地医療支援機構の設置があります。へき地医療支援機構の運営主体は、これまでへき地医療支援の中核を担ってきた、あるいは担い得る医療機関等とし、専任担当者はへき地での診療経験を有する医師とされています。

島根県においては、2002年度に「緊急へき地等医療支援対策」として「へき地等医療支援会議」を立ち上げ、「へき地等医療支援機構」(以下機構)が設置されております。機構の目的は、へき地診療所等からの代診医の派遣要請等広域的なへき地等医療支援事業の企画・調整等を行い、へき地等医療対策の各種事業を円滑かつ効率的に実施することです。この事業の実施主体は島根県であり、機構は県立中央病院に置かれ、代表は県立中央病院長です。2003年度には県立中央病院に県立中央病院長が指名する専任担当医師が置かれる予定になっております。

次回には機構の具体的な業務内容を説明いたしますが、島根県における「へき地等医療支援機構」が整備されることにより、今後益々島根県のへき地医療支援が充実していくものと思われま

【県立中央病院 木村】

### ◇やさしくて人間の好きなお医者さんへ

分かり難い外来語を日本語でどう言い換えたら良いか? 「国立国語研究所」がインフォームド・コンセントを「納得診療」と言い換えることを提案しています。

いまどき、「患者は何も分っていないのだから何も知らせず医師が判断したほうが良いのだ」という医療関係者はいないと思いますが、ほんの少し前の時代にはそうでもなかったのです。

医療は科学に基づいたものでなくてはならない(EBM)ですが、当然限界があります。だから、患者さんの満足感を満たすためには、技術力が前提としてあるが、科学の粋を結集してもその方向からのアプローチだけでは「納得医療」は達成できません。

選択の幅が狭く、高度医療へのアクセスの悪い離島やへき地で働かれています。お医者さんは患者さんの気持ちを大切に、患者さんから愛されることに喜びを持って日々診療をされています。私の出会ったへき地で長く活躍をされているお医者さんの共通像です。

へき地ならではのこそ、行政がバックアップすることもできますし、住民の皆さんが医者さんを頼りにする気持ちも大変強いものがあります。

都会地では達成することが難しい"自己実現"の条件がここにはあるかもしれません。

【川本健康福祉センター杉原】

### ◇島根の観光ナビ紹介します

島根県観光連盟(<http://www.kan-kou.pref.shimane.jp/>)ではコンパクトなメールマガジン「楽しメール島根」を発信しています。島根選りすぐりのお得な観光情報が月に2回程度届けられます。

### None Blue Rose



経済不況は深刻だといっても物や金余りで爛熟期の様相を呈する現代日本。一方であらゆる美德は消えたかのようで、消費やマネーという麻薬的価値が人を縛り、利己的願望に操られて社会全体が視野狭窄に陥っている。指導層のモラルの低下、存在の醜悪化は目を覆うばかりで青少年への影響は目に余る■腐敗の主たちに先生と称される人々がいる。仮に"先生"が揶揄される対象となれば社会は健全でなくなる、未来を信じて頑張る人はいなくなるだろう■医療の面で先生の称号は、人間として信じるに足り温かい心を持った親しみのあるマイスターにこそ与えたい。身体を委ねることができ、一個の人間として受け止めてくれる医師だ。厳しく辛い環境にあるへき地こそ、そうした先生に一人でも多く行ってほしいと思うがいかがだろうか[F]

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことでBlueRoseは不可能という意味。NoneBlueRoseは私たちのへき地医療への熱いメッセージです。



### 島根県庁医療対策課の連絡先

E-mail / [iryu@pref.shimane.jp](mailto:iryu@pref.shimane.jp)  
TEL / 0852-22-5251  
住所 / 690-8501 松江市殿町 1  
ホームページ[島根の医療]  
<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>

